

# 地震大チハイ

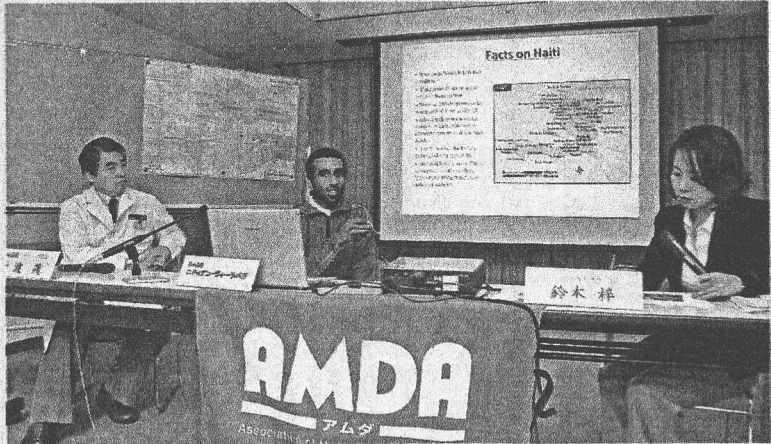
# 義肢提供へ支援活動

## AMD A 4月にもスタート 菅波代表

ハイチ大地震で、被災者の医療支援に取り組んでいる国際医療ボランティアAMD A(本部・岡山市北区櫛津)は10日、治療の遅れなどから手足を切断せざるを得なかった患者らを対象とした「義肢支援プロジェクト」を立ち上げることが明らかにした。

岡山市内で開いたメンバーの帰国会見で、菅波茂代表が表明した。ドミニカ共和国との国境に近い町・エリアスピーニャの病院を拠点にする予定。義手、義足の確保や資金繰りなどを検討し、4月にも本格的にスタートさせる。

会見では、帰国(9日)までハイチの公的病院で医療活動をサポートしたニティアン・ヴィーラバグ調整員(41)が「現在も衛生状態はひどく感染症拡大が懸念されるが、手術が必要な患者は減りつつある。今後はリハビリや義肢提供などの支援活動が軸になる」との見方を示した。



ハイチの医療支援について会見するAMD Aの菅波代表(左)、ヴィーラバグ調整員(中央)ら

現地の様子について、メスなどの医療器具がそろわず、医師が府状態のため平等に配工夫して手術を行った状況などを紹介。「水」暴力も発生している

など報告した。精神的なケアのため

計画するハイチとドミニカ、日本の3カ国の少年野球交流について、菅波代表は「岡山、広島から1チームずつ派遣する。7月に実現させたい」とした。

ドミニカで活動したAMD A社会開発機構の鈴木梓調整員も会見に同席した。AMD Aは地震発生直後の1月中旬から現地入りし、医療活動を展開。10日までに医師、看護師ら22人を派遣している。

(内田圭助)